

Reference No.2

Utility Model

Public Laid-open Disclosure No.: 60-113711

Public Laid-open Disclosure Date: August 1, 1985

Title of Invention: Container for Liquid Cosmetic

Applicant: Kamaya Kagaku Kogyo

Abstract:

The object of the present invention is to provide a container for liquid cosmetic whose an application portion can be bent in steps.

In the embodiment of the present invention, the bent angle of the applicator rod 4 can be gradually enlarged from the straight state shown in Fig. 1 by rotating the upper cap 10 (three times). In this state, by turning the upper cap 10 over 180 degrees, the applicator rod 4 can be bent or straighten to use it effectively.

Explanation of Reference Numerals

1 container body

2 cap

3 brush rod

4 applicator rod

X-X' axis axis of brush rod

Y-Y' axis axis of applicator rod

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭60-113711

⑬ Int. Cl.⁴

A 45 D 34/04

識別記号

庁内整理番号

6671-3B

⑭ 公開 昭和60年(1985)8月1日

審査請求 有 (全4頁)

⑮ 考案の名称 液状化粧料容器

⑯ 実 願 昭59-1107

⑰ 出 願 昭59(1984)1月9日

⑱ 考 案 者 田 原 登 美 雄 東京都板橋区加賀1丁目14番1号 釜屋化学工業株式会社
東京工場内

⑲ 考 案 者 佐 藤 隆 文 東京都板橋区加賀1丁目14番1号 釜屋化学工業株式会社
東京工場内

⑳ 出 願 人 釜屋化学工業株式会社 東京都台東区浅草橋5丁目23番6号

㉑ 代 理 人 弁理士 志賀 正武

㉒ 実用新案登録請求の範囲

有底筒状の容器本体と、この容器本体の上端開口部を閉塞する蓋体と、この蓋体に設けられ前記容器本体内に出し入れ自在に挿入される有底筒状部と、前記蓋体に対してねじ結合されこの蓋体との相対回転によつて前記有底筒状部内を往復動する筆軸とを備え、この筆軸の先端には、筆軸の軸心より偏心した位置に筆軸の軸線と平行に延びる塗布棒が設けられ、さらに、前記筒状部の底板には、塗布棒を貫通させるための孔が形成され、かつこの孔の軸線は塗布棒の軸線に一致していることを特徴とする液状化粧料容器。

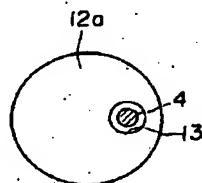
図面の簡単な説明

第1図ないし第5図は、本考案の第1実施例を示すもので、第1図および第2図は中央縦断面

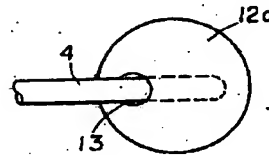
図、第3図は筆軸先端の拡大断面図、第4図および第5図は有底筒状部を底面から見た平面図、第6図は本考案の第2実施例を示す中央縦断面図、第7図は本考案の第3実施例を示す中央縦断面図、第8図は本考案の第4実施例を示す中央縦断面図、第9図は本考案の第5実施例を示す中央縦断面図である。

1……容器本体、2……蓋体、3……筆軸、3a……おねじ、4……塗布棒、X-X'線……筆軸の軸線、Y-Y'線……塗布棒の軸線、9a……めねじ、9……下蓋、13……孔、W-W'線……孔の軸線、15……縦溝(ガイド溝)、23……ガイドリブ、G……ガイド機構、30……大径筒状部、31……つまみ部、35……めねじ。

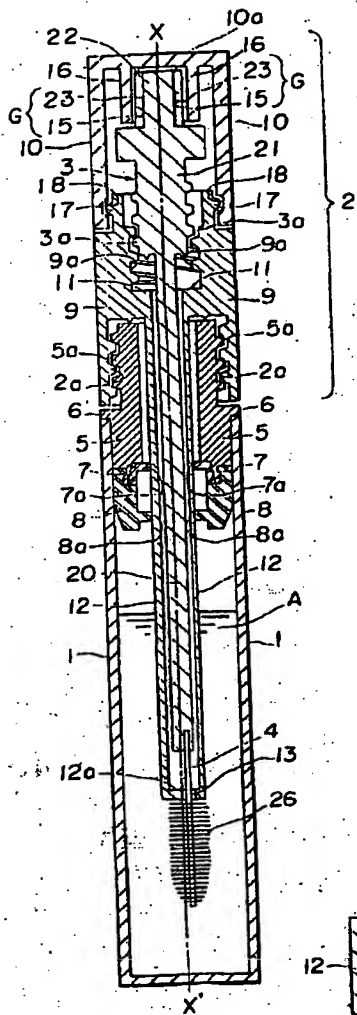
第4図



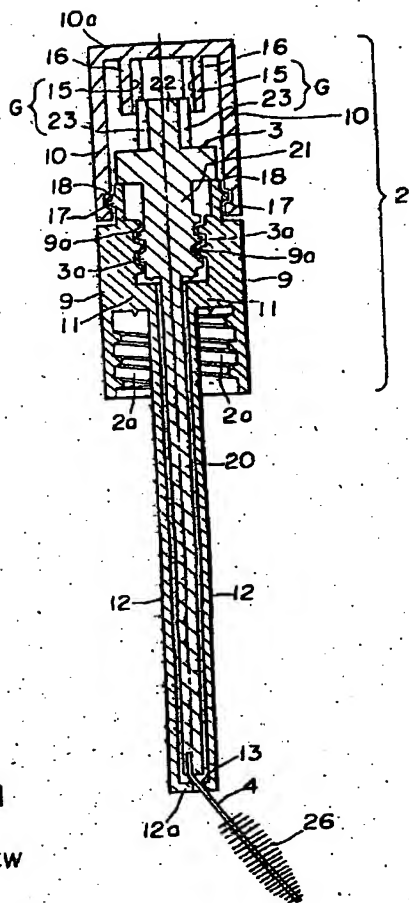
第5図



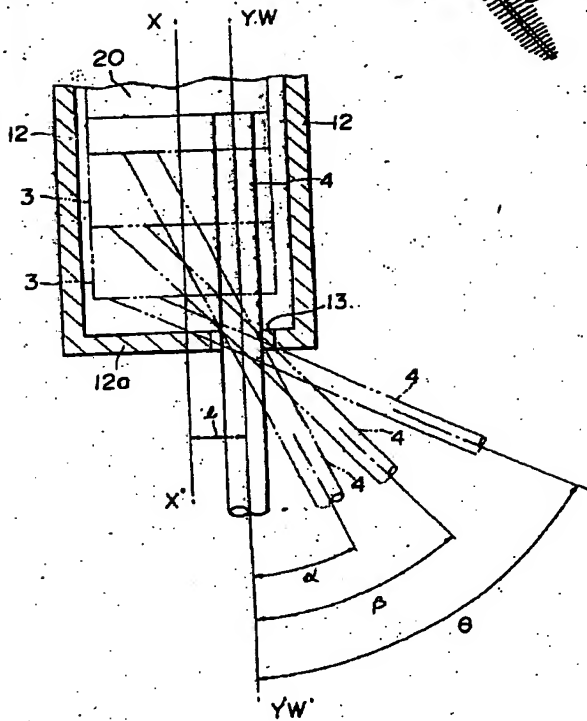
第1図



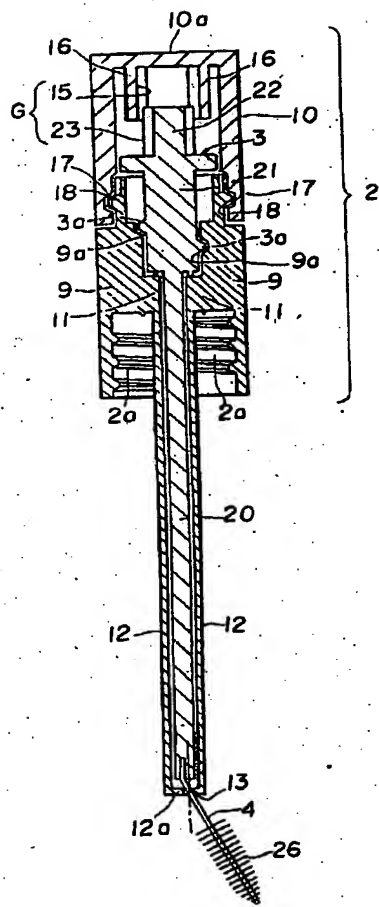
第2回



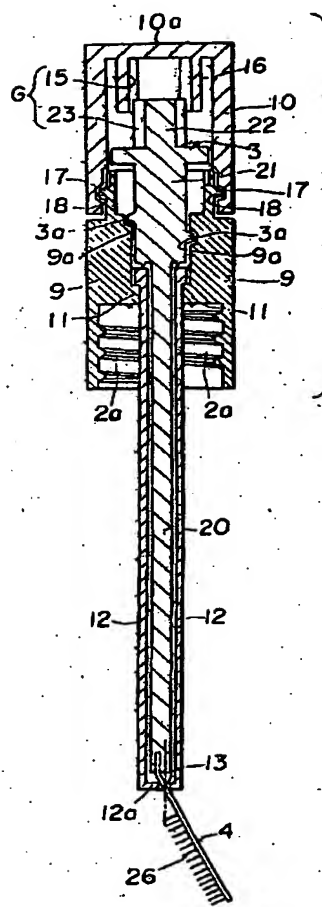
第3図



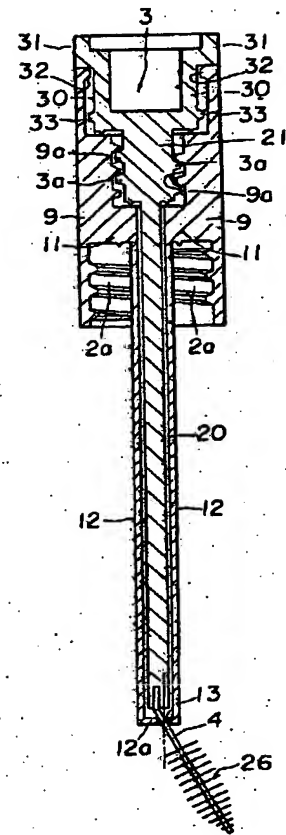
第6図



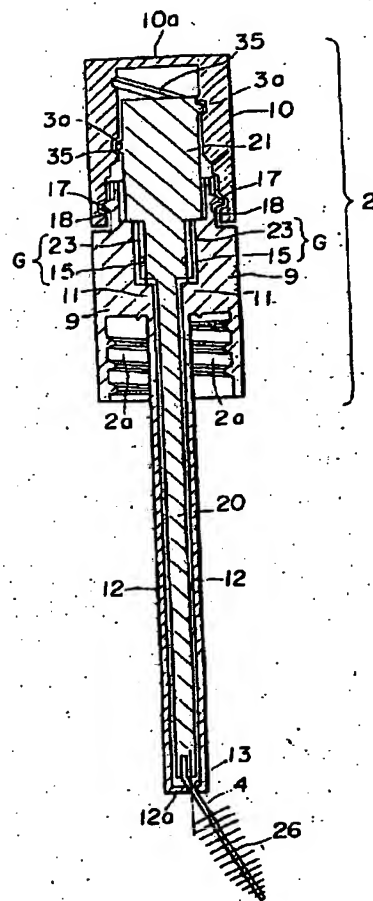
第7図



第8図



第9図



公開実用 昭和60-113711

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭60-113711

⑬ Int.Cl.⁴

A 45 D 34/04

識別記号

庁内整理番号

6671-3B

⑭ 公開 昭和60年(1985)8月1日

審査請求 有 (全 頁)

⑮ 考案の名称 液状化粧料容器

⑯ 実 願 昭59-1107

⑰ 出 願 昭59(1984)1月9日

⑱ 考 案 者 田 原 登 美 雄

東京都板橋区加賀1丁目14番1号 釜屋化学工業株式会社
東京工場内

⑲ 考 案 者 佐 藤 隆 文

東京都板橋区加賀1丁目14番1号 釜屋化学工業株式会社
東京工場内

⑳ 出 願 人 釜屋化学工業株式会社

東京都台東区浅草橋5丁目23番6号

㉑ 代 理 人 弁理士 志賀 正武

明 細 書

1. 考案の名称

液状化粧料容器

2. 実用新案登録請求の範囲

有底筒状の容器本体と、この容器本体の上端開口部を閉塞する蓋体と、この蓋体に設けられ前記容器本体内に出し入れ自在に挿入される有底筒状部と、前記蓋体に対してねじ結合されこの蓋体との相対回転によつて前記有底筒状部内を往復動する筆軸とを備え、この筆軸の先端には、筆軸の軸心より偏心した位置に筆軸の軸線と平行に延びる塗布棒が設けられ、さらに、前記筒状部の底板には、塗布棒を貫通させるための孔が形成され、かつこの孔の軸線は塗布棒の軸線に一致していることを特徴とする液状化粧料容器。

3. 考案の詳細な説明

本考案は、たとえばマスカラ、液状アイライナー等の液状化粧料を入れて使用するのに好適な液状化粧料容器に関するものである。

一般に、マスカラ、液状アイライナー等の液状化粧料を入れる容器は筆軸を有し、この筆軸の先端に設けた塗布刷毛（塗布部）に化粧液を付着させて睫毛に塗布する構造のものである。

ところで、従来のこの種の容器は、筆軸と塗布部とがほぼ一直線に位置する構造のものであつた。このため、仮りに右ききの人が使用する際は、右手に筆軸を持つて睫毛に塗るので、右目の睫毛は自由に塗ることができるが、左目の睫毛に塗る時は、筆軸が鼻に邪魔して上手に塗れない上、時には筆軸が鼻に触れ鼻に化粧液を付けてしまう場合がある。また、このような使用上の難点を解決するため、筆軸の先端の塗布部を曲げた構造のものもあるが、逆に右目の睫毛が塗りづらくなる上、塗布部が曲折しているため、筆軸を容器本体内に入れにくく、また強く筆軸を容器本体内に押し込むため、筆軸をしごくしごき径の寿命が短くなつてしまうなどの問題があつた。

（このような不具合を解決する手段として本出願人は先に実願昭58-133376号、実願昭

58-137952号などを提案し、一応の解決をなしている。

本考案は、これらの技術をさらに改良したもので、塗布部（塗布棒）の曲り角度を段階的に調整することができ、しかも、この塗布部の曲折角度をより大きくすることを目的とするもので、このような目的を達するため、本考案は、先端に塗布棒をもつた筆軸を蓋体にねじ結合し、この蓋体と筆軸との相対回転によつて塗布棒を曲折する如くしたものである。

以下、本考案を第1図ないし第5図に示す第1実施例に基づいて説明する。

図中符号1は容器本体、2はこの容器本体1の上端開口部を閉塞する蓋体、3はこの蓋体2内に収納された筆軸であり、この筆軸3の先端には、筆軸3の軸線X-X'線よりも長さ ϕ だけ偏心した位置に筆軸3の軸線X-X'線と平行に延びる軸線Y-Y'線をもつ塗布棒4が設けられている（第3図参照）。

前記容器本体1は、たとえば合成樹脂あるいは

金属などによつて有底円筒状に形成されており、また、この容器本体1の口縁には蓋体2のめねじ2aに螺合するおねじ5aを外周面に有する筒状の連結用栓体5が固定的に嵌め込まれている。この連結用栓体5は、その中央部外周面にフランジ部6を有し、このフランジ部6の下面が容器本体1の口縁に当接する位置まで容器本体1内に嵌め込まれている。なお、この連結用栓体5の下端内周面には有底筒状の上部しどき栓7が、また下端外周面には有底筒状の下部しどき栓8がそれぞれ嵌め込まれている。これら2つのしどき栓7、8は、全体としてゴムなどの適宜な弾性をもつ素材で形成され、上部しどき栓7の頭部および下部しどき栓8の底部にそれぞれ縦軸3が貫通する円形のしどき孔7a、8aが形成されている。なお、前記下部しどき栓8は、容器本体1の内周面に緊密に嵌合して化粧液Aの漏れを防止するいわゆるパッキンとしての機能を有している。

一方、前記蓋体2は、連結用栓体5に螺合する筒状の下蓋9と、この下蓋9の上端に凹凸嵌合に

よつて嵌め込まれた有頭筒状の上蓋 10 とから構成されている。

この下蓋 9 は、合成樹脂などによつて全体が円筒状に形成されており、この下蓋 9 のほぼ中央部内周面には、半径方向内方へ向かつて環状の突出部 11 が一体に突設されている。そして、この突出部 11 より下側内周面には、前記連結用栓体 5 のおねじ 5 a に螺合するめねじ 2 a が形成され、また突出部 11 より上側内周面には、前記縦軸 3 の外周面に形成されたおねじ 3 a に螺合するめねじ 9 a が形成される。一方、前記突出部 11 の下面からは、内部に縦軸 3 を収納する如くかつ容器本体 1 内に出し入れ自在に挿入される有底筒状部 12 が下方に向かつて一体に突出形成されている。また、この筒状部 12 の底板 12 a には、縦軸 3 の先端に取り付けた塗布棒 4 を貫通させるための孔 13 が形成され、かつこの孔 13 の軸線 W - W' 線は、第 3 図に示すように、塗布棒 4 の軸線 Y - Y' 線に一致している。

また、上蓋 10 の天井面 10 a からは、内周面

に複数の縦溝（ガイド溝）15が形成された嵌合筒部16が下方に向かつて突出形成されるとともに、上蓋10の下部内周面には下蓋9の係止突条17に嵌合する周溝18が形成されている。なお、前記下蓋9と上蓋10とを嵌め合わせるこれら係止突条17および周溝18は互いに逆に形成する構成であつても良い。

さて、ここで、前記筆軸3について説明を加えておくと、この筆軸3は、前記筒状部12内に挿入される長寸の小径軸部20と、この小径軸部20の上端に形成されかつこの小径軸部20よりも大径で短寸の胴部21とを有し、この胴部21の外周面には、下蓋9の上部内周面に形成されためねじ9aに嵌合するおねじ3aが形成される。なお、このおねじ3aとめねじ9aとのピッチについて説明を補足しておくと、このピッチは本実施例では筆軸3を3回転させるとこの筆軸3が最上昇位置と最下降位置とを往復動する大きさに設定されている。

また、前記筆軸3の上部には、前記上蓋10の

嵌合筒部 1 6 内に嵌合する嵌合胴部 2 2 が形成され、この嵌合胴部 2 2 の外周面には、前記嵌合筒部 1 6 の縦溝（ガイド溝）1 5 に嵌合するガイドリップ 2 3 が形成されている。そして、これら嵌合筒部 1 6 のガイド溝 1 5 と筆軸 3 のガイドリップ 2 3 とによつて筆軸 3 を上下方向へ案内するガイド機構 G が構成される。

また、この筆軸 3 の先端に設けた塗布棒 3 は、可撓性のある材質から形成されており、塗布棒 3 の先端には塗布刷毛 2 6 が設けられている。

以下、このように構成された液状化粧料容器の作用について説明する。

第 1 図のように組み立てた状態において、下蓋 9 と上蓋 1 0 とをもつて、たとえば上蓋 1 0 を 180° 回転させると、筆軸 3 はガイド機構 G に案内されながら螺旋進し、塗布棒 4 が下方に移動する。一方、この操作により、この塗布棒 4 の軸線 Y - Y' 線と、筒状部 1 2 に形成した塗布棒貫通用の孔 1 3 の軸線 W - W' 線とがずれ、これにより塗布棒 4 は、第 3 図に示すように角度 α だけ曲

折される。

また、このようにして、塗布棒4が曲折させられた状態から、上蓋10を同一方向に 180° 回転させると、塗布棒4の軸線Y-Y'線と前記孔13の軸線W-W'線とが一致し、再び塗布棒4は真つ直ぐな状態に復帰する。次いで、さらに上蓋10を同一方向に 180° 回転させると、前記鉋軸3は前述の曲折状態よりも1回転させられた分繰進して下降するから、塗布棒4の曲折角度は角度 α よりも大きな角度 β だけ曲折される（第3図参照）。

この状態からさらに上蓋10をまわして鉋軸3を同一方向に 180° 回転させると、塗布棒4は再び元の真つ直ぐな状態に復帰し、次いでまた鉋軸3を 180° 回転させると、前回よりも鉋軸3が下降するので、塗布棒4の曲折角度 θ は、前回の曲折角度 β よりも大きくなり、その曲折角度は最大となる。第2図はこのようにして、塗布棒4を最大に折れ曲げた状態を示す中央縦断面図である。



このように、本実施例においては、筆軸 3 のおねじ 3 a のピッチによつて、塗布棒 4 を第 1 図に示す真つ直ぐな状態から上蓋 10 を回す操作によつて徐々に（3 回）曲折角度を大きくできるという便利さがある。また、好みに応じた塗布棒 4 の曲折角度が決まれば（たとえば 2 回目よきの角度）、この状態で上蓋 10 を 180° ひねることによつて塗布棒 4 を曲げたり、真つ直ぐにしたりして曲折角度を使い分けられる便利さもあり、より効果的に使用できる利点もある。

しかして、本実施例では、このようにして塗布棒 4 を曲げたり、真直ぐにしたりして塗布棒 4 の角度を容易に調整することができるので、左右の目の睫毛に筆軸（筒状部 12）を邪魔にせず、化粧液 A を塗布することができる。そして、塗布棒 4 を容器本体 1 内に入れる際にも、この塗布棒 4 を真直ぐな状態にして入れることができるので、筆軸を収納した筒状部 12 の出し入れが容易で、シゴキ栓 7、8 の寿命も長くすることができるのである。

第 6 図は、本考案の第 2 実施例を示すもので、
紙軸 3 のおねじ 3 a のピッチを大きくし、紙軸 3
を半回転させるだけで塗布棒 4 を最大に曲げる構
造としたものである。

また、第 7 図は、本考案の第 3 実施例を示すも
ので、第 2 実施例に示す構造の変形例である。こ
れは、下蓋 10 と筒状部 12 とを別部材によつて
構成したもので、下蓋 10 を容易に製造すること
ができるものである。そして、このような構造で
あつても、塗布棒 4 を真つ直ぐにしたり、曲げたり
することができる。なお、図示例の塗布刷毛
26 は、歯ぶらし状に塗布棒 4 の一部に植設され
ている。

次いで、第 8 図により、本考案の第 4 実施例に
ついて説明する。これは、上蓋をなくし、紙軸 3
を直接回転させる構造としたもので、他の構造は
第 1 実施例と同一である。

紙軸 3 の胴部 21 の上端には、この胴部 21 より
も大径の大径筒状部 30 が一体に形成され、こ
の大径筒状部 30 の上部が下蓋 10 (本実施例で

は蓋体)の外径と同一径をもつたつまみ部31とされている。なお、下蓋10の上部内周面および前記大径筒状部30の外周面には、互いに係合して縦軸3の抜け止めをする抜け止めリブ32, 33がそれぞれ形成される。

次いで、第9図を参照して本考案の第5実施例について説明する。

これは、上蓋10の内周面に、縦軸3の胴部21外周面のおねじ34に係合するめねじ35を形成し、下蓋9に縦軸3を上下に案内するガイド機構Gを設けたものである。なお、前記めねじ35のピッチは、前述した第2、第3実施例と同様、大きく設定され、ひとひねりで、塗布棒4を最大に曲折させる構造となつている。

以上説明したように、本考案は、先端に塗布棒を設けた縦軸と、この縦軸を収納する有底筒状部との相対回転によつて塗布棒の向きを容易に調整することができ、しかもこの塗布棒を非常に大きく曲折させることができるので、左右両睫毛への塗布をきわめて容易に行なうことができ、またし

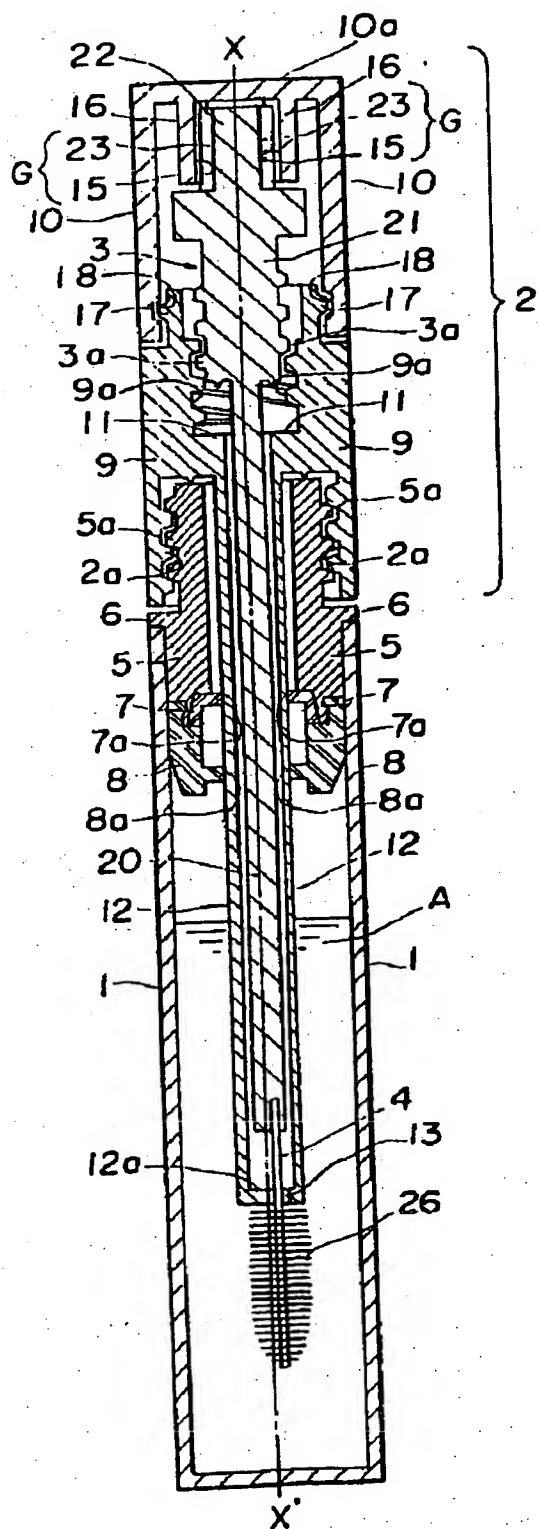
ごき栓の寿命も長くすることができるなどの種々の実用的効果を有する。

4. 図面の簡単な説明

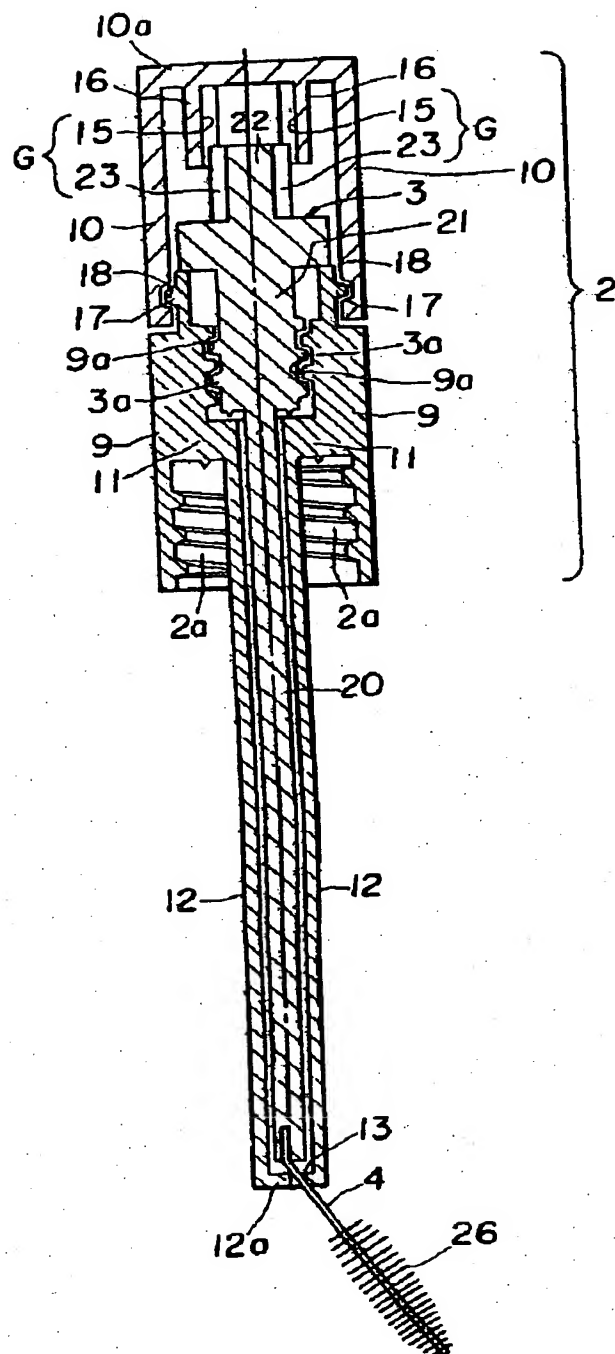
第 1 図ないし第 5 図は、本考案の第 1 実施例を示すもので、第 1 図および第 2 図は中央縦断面図、第 3 図は筆軸先端の拡大断面図、第 4 図および第 5 図は有底筒状部を底面から見た平面図、第 6 図は本考案の第 2 実施例を示す中央縦断面図、第 7 図は本考案の第 3 実施例を示す中央縦断面図、第 8 図は本考案の第 4 実施例を示す中央縦断面図、第 9 図は本考案の第 5 実施例を示す中央縦断面図である。

1 ……容器本体、2 ……蓋体、3 ……筆軸、3 a ……おねじ、4 ……塗布棒、X - X' 線 ……筆軸の軸線、Y - Y' 線 ……塗布棒の軸線、9 a ……めねじ、9 ……下蓋、13 ……孔、W - W' 線 ……孔の軸線、15 ……緩衝（ガイド溝）、23 ……ガイドリップ、G ……ガイド機構、30 ……大径筒状部、31 ……つまみ部、35 ……めねじ。

第 1 図



第 2 図



出 願 人

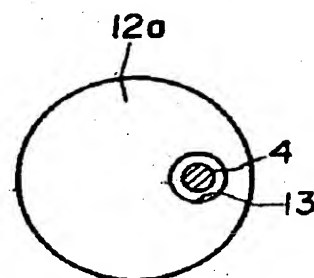
釜屋化学工業株式会社

代理人弁理士 志賀正武

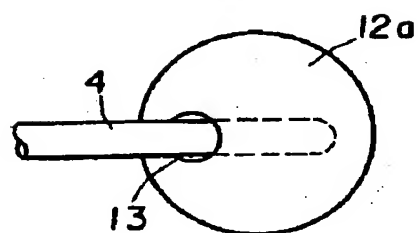
74

実開CO-113711

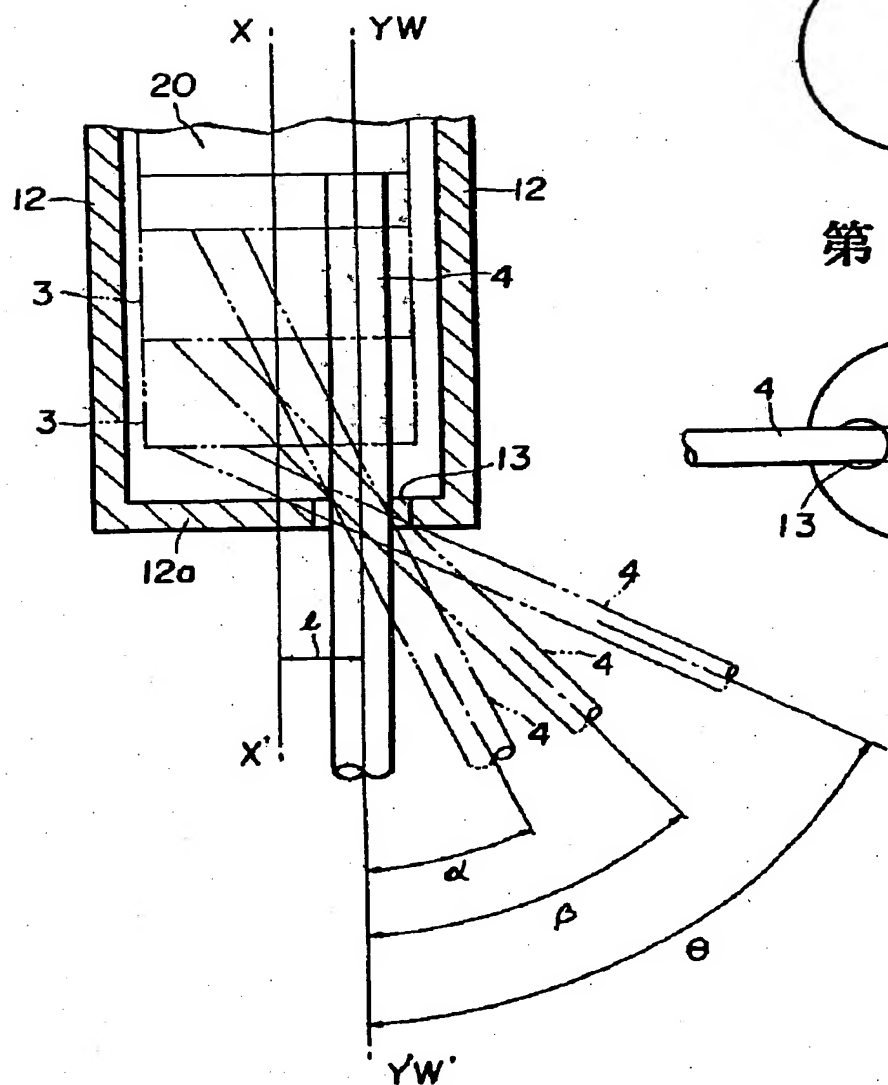
第4図



第5図



第3図



75

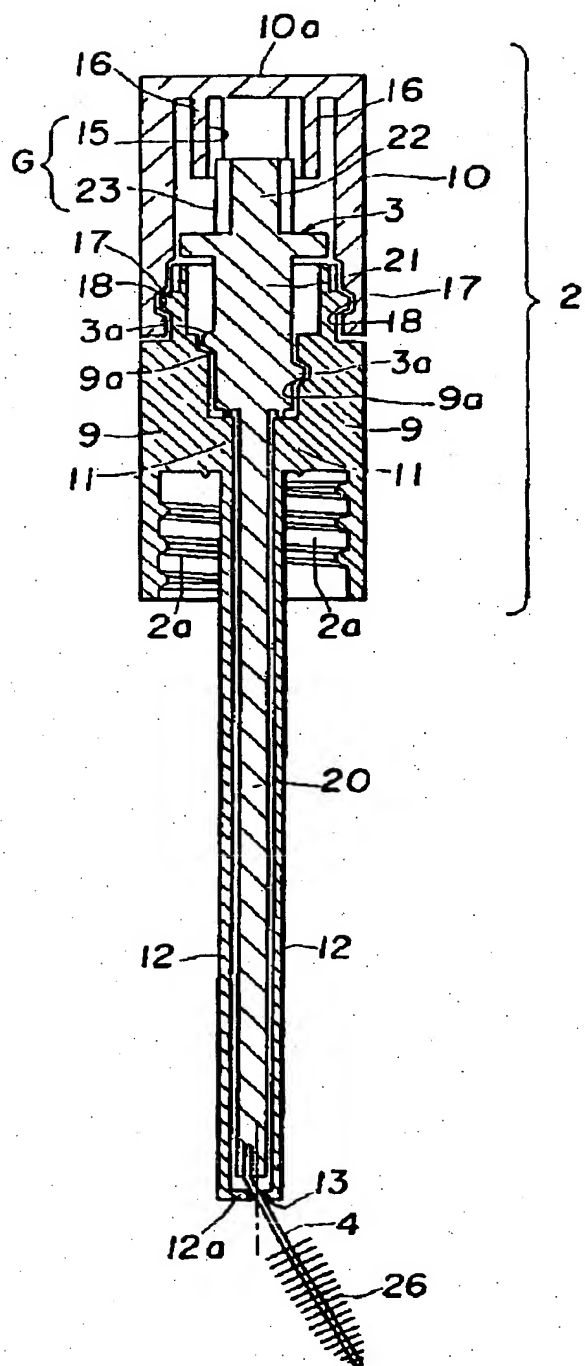
出願人

釜屋化学工業株式会社

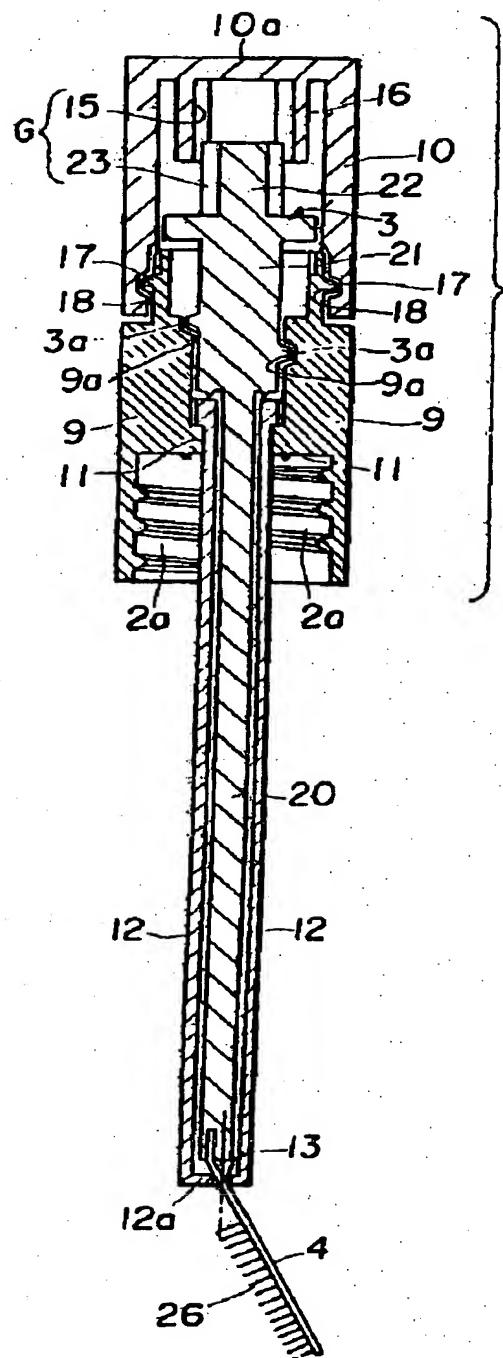
代理人弁理士 志賀正武

実開CO-113711

第 6 図



第 7 図



出 願 人

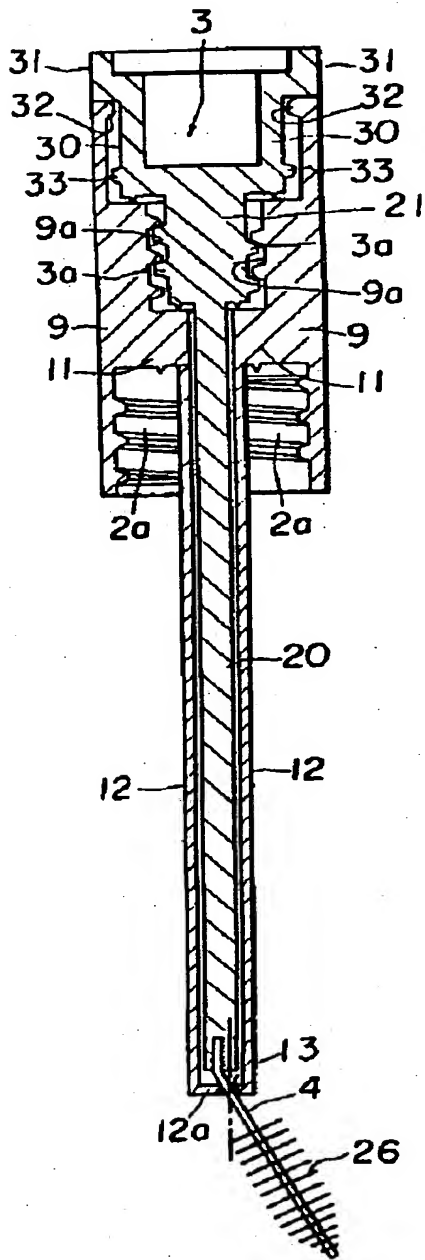
釜屋化学工業株式会社

代理人 弁理士 志賀正武

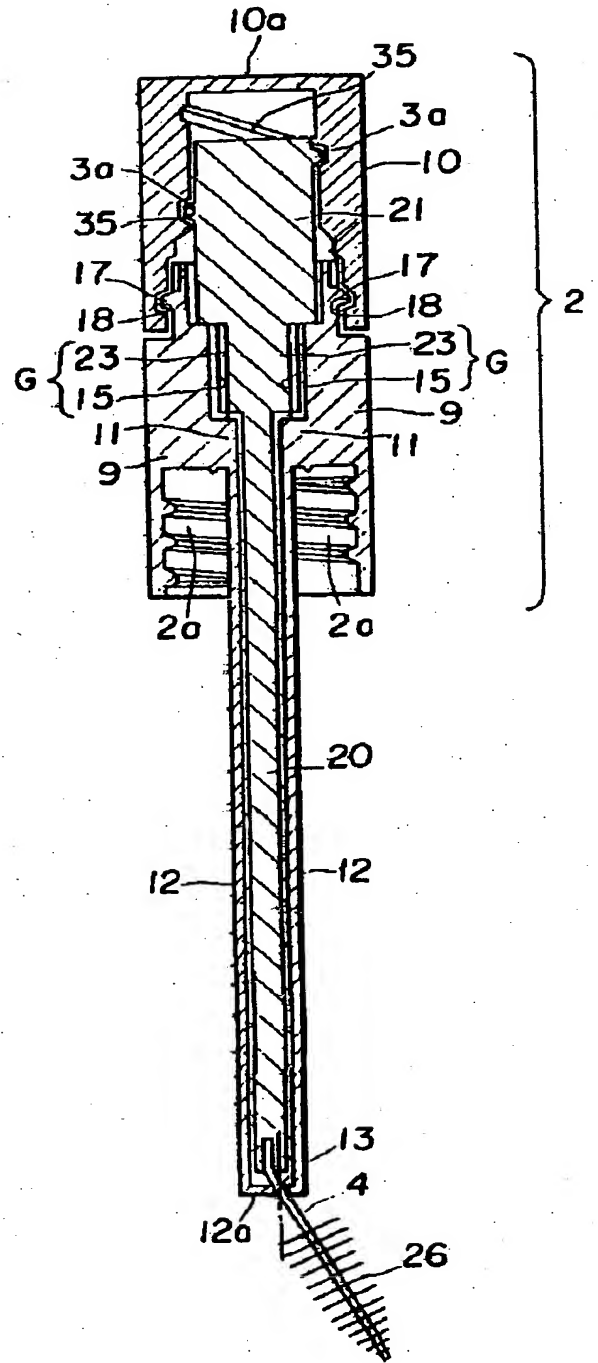
76

実開CO-113711

第8図



第9図



出願人

釜屋化学工業株式会社

代理人弁理士 志賀正武

実用 昭和60-113711

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☒ FADED TEXT OR DRAWING
- ☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☒ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☒ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.